

GreenThumb



C O N T E N T S

市民とのコラボレーション・さんぽ駅…2

心のビタミン◎INTERVIEW 三浦晶子さん…3

むつみ35周年記念座談会

五感で感じる造園業…4

ゲスト◎造園家・桐蔭横浜大学教授／涌井史郎

景観十年、風景百年、風土千年

創造の真髄へのこだわり

水心苑／県立小泉湯公園…9

秋田市・小畑邸◎ノンフィクションライター／野地秩嘉…10

天王町・高橋邸◎秋田大学教授／横山智也…11

アキタバイオミックエリア生態系公園

◎秋田県立大学助教授／蒔田明史…12

東北山之内製薬西根工場／佐川急便蔵王さがわ

日本国花苑／道の駅おがち小町の郷…13

昭和町・小玉邸…14

美しい国づくり、地域づくりに期待する／佐々木吉和

◎むつみ35年の足跡…15

2004年 夏号

市民とのコラボレーション

出戸浜駅から天王ボタニカルセンターまでの道の途中、グリーンサムロードの真ん中に「さんぼ駅」ができました。

むつみ造園と市民の協働作業事業として、出戸浜駅からボタニカルセンターまでの道の1区画に植栽と石を整備し「グリーンサムロード」を、また、グリーンサムロードの途中に地域の皆様の休憩所として「さんぼ駅」を、そしてボタニカルセンターにあとりえより広々とした空間の「グリーンサム展示館」が完成しました。どうぞ、お気軽にご利用下さい。



出戸診療所の前でご近所の方がお花の水やりをしていました。



曲り角にボタニカルセンターへの案内板があります。



たくさんの動物の石像が並んでいます。ラクダにシマウマ、クマ、ヤギ…。



ボタニカルセンター隣のグリーンサム展示館。あとリエグリーンサムにも隣接しています。



さんぼ駅の内側には掲示板があります。ぜひご利用ください。散歩の途中、お買い物の帰り道、雨宿り…などなど、ちょっと休憩できる「さんぼ駅」です。



木・竹・石など自然素材を使用した「さんぼ駅」で、出戸幼稚園のお友達が遊んでいました。元気いっぱい走り回る園児たち。周りで見守るお母さんたち。通りかかった人は皆、その微笑ましい光景に顔がほころびます。



グリーンサム展示館は、開放感のある吹き抜けに和紙のランプが下がり、広々とした空間が広がります。各種パーティー・展示会・講習会等にご利用下さい。

秋田グリーンサム倶楽部

私たちは
花と緑の生活を楽しむ人々が集い、
交友を通して、友情と信頼を深め
真の豊かな、質の高い暮らしを希求します。

私たちは
秋田が花の群やかな色彩や、
木々の多彩な緑が実感できる、
品格ある地域社会づくりに努めます。

私たちは
秋田の自然のすばらしさを守り育み、
自然と人間が共生する、
環境創造と世界平和に貢献します。

秋田グリーンサム倶楽部

秋田市川尻御休町4-27 ☎018-866-5536
あとリエグリーンサム ☎018-878-3986

◎心のビタミン



小笠原諸島(1)からも注文がくるといふみぞ漬は天王グリーンランドでも購入できる。

「メロンのみぞ漬」
ジュンペーロうしがれ!

天王町 三浦醤油店◎三浦 晶子

昭和12年創業の三浦醤油店。醤油の香りが漂う事務所奥の工場に、屈託のない笑顔で作業する三浦晶子さんがいる。ここでは従業員の方々と小さなメロンの皮をむいていた。若美町のメロンをみぞ漬にするためだ。

「カリッと歯ごたえとフカツとしたやわらかさがあるんですよ。おいしいですよ、ぜひ食べてみてください!」

メロンのみぞ漬を食してみると、歯ごたえのあとに控えめな甘い香りが広がり、噛むほどに味が滲みわたる。首都圏からこのみぞ漬を指名買いする固定ファンがいるというのも頷ける。通年生産されている大根、ニンジン、キュウリ、昆布、どれも甘口の程良いしょっぱさで、お茶請けやご飯にピッタリだ。

三浦さんがみぞ漬の販売を始めたのは、地域の皆さんから美味しいと評判だったみぞ漬を町の特産品にしようと声を掛けられたのがきっかけ。三浦家の食卓の味が評判が評判を呼び、今では日本全国に広まっている。

「最初は裏の畑でおばあちゃんが作る野菜をみぞ漬にして、商工会婦人部の集まりなんかを持って行ってただけ。ほんのいたずらっこで(笑)」
メロンのみぞ漬を発売したのも三浦さん。ある日、偶然通りかかった若美町のメロン農家さんから、出荷できない小さなメロンをいただいて漬けてみたら、とても美味しかったそうだ。

INTERVIEW

ご主人と仲良く作業中!

◎三浦醤油店
南秋田郡天王町天王字上江川47-502 TEL 018-878-2015

そして何度も試作を繰り返し、販売できるまでになった。メロンが特産の地域では、ぬか漬けなどの漬物は案外見られるが、みぞ漬は全国的にも珍しい。

三浦醤油店の醤油や味噌はやや甘口タイプ。みぞ漬のほんのり甘い味は、「この味噌でないと出ない味なのだろう。」「この味が好き」と言ってくれるお客さんがいるから頑張れるんだ、と三浦さんは言う。

「物産展などでは評判が良くて、あつという間に売り切れになってしまっんです。みぞ漬だけに手前みそですが(笑)」

こんなメロンのみぞ漬が食卓に上がったら腹八分目は到底無理だろう。秋田のスローフード、一度食してみたい逸品だ。



↑メロンのみぞ漬



地方造園人が語る

これからの地方造園人は、どう生きるべきか？ 浦井教授をお迎えし、世代の違うむつみ造園社員が未来への夢やメッセージを語った。

五感で感じる 造園業

浦井史郎[雅之](ShiroWakui)

東京都出身。造園家。
桐蔭横浜大学生命環境工学研究機構長・教授。
造園家として、ハウステンボス等の計画・設計で学会賞を受賞。
大学では緑や花のもたらすストレス低減の効用の研究と、生命・
医用工学分野のプロジェクト研究の総括マネージメントを行
っている。最近EXPO2005「愛・地球博」の会場演出総合プロ
デューサーに就任。今、その計画に取り組んでいる。またTBS、
サンデーモーニング等にセミレギュラーとして出演する等、
テレビを通じ造園家として今まさに注目の人物である。



見無関係のようであって、非常に大事なんですよ。
生物ってね、進化すると巨大化するんだって。巨
大化してその次に絶滅する。恐竜がそうですね。目
一杯大きくなったところで、カタストロフで絶滅
する。つまり、大きくなることだけだと絶対どこか
に限界がある。むつみが35年という、企業30年寿命
と言われるハードルを越えたっていうのは、ただ
会社を大きくするという思想ではなく、今回のみ
ちのく湖畔の杜公園のイベントのように、常に次
への種まきをしている。会社が生きているってい
う意味を考えている。僕が一番気になるのは、それ
をどっつう風に皆さん方が引き継ぐのか。佐々木
というひとりの、言ってみりや突然変異という
の？ 変わった台木の上からね、接ぎ木としてあなた
達が自分達なりにどう継承していくのかを聞いて
みたいな。

社

会には、
まず最初に競争がある。

佐々木吉和：我が社には途中入社もけっこういる
んですよ。基本的には個性尊重で、動物園で良いと
思っています。ソウさんもいるし、ウサギさんもい
る。だから個性集団なのですが、最近若い方々がみ
んな一律でね、ソウさんじゃなくてみんなシマウ
マクラスっていうか、やっぱり時代が豊かになっ
てきているせいでしょうか。

浦井：シマウマになってきたのは危ないね。皆さ
んも百も承知かと思いますが、生物社会で豊かさを
計る物差しと言えば、ダイバーシティーインデッ
クスノ多様性指標、すなわち単位で一定の面積の
中にどれくらい数多くの種がいるか。たくさん
種がある社会は豊かだし、永續性があるってこと
なんです。社会っていうのは、まず最初に競争があ
る。例えばシヤクナゲと針葉樹、モミがあつて、モ
ミの木陰にシヤクナゲが隠れて花が咲かなければ、

技

術者のあるべき姿とは？
…失われた獨創性。

浦井史郎(以下敬称略)：道路緑化保全協会の機関
誌に「技術者のあるべき姿」ってかなり思い切った
こと書いてね、そもそも技術者というのは、その時
代の人達が持っている夢を実現するための手だて
を独創的に考案する、というのが一つ。考案したも
のを今度は具体的に物なり空間として世の中に示
す。もう一つは、それが世の中にどれだけ価値のあ
るのかということを自ら啓蒙・宣伝する、というこ
と。この二つが本当は技術屋の本質だと思う。こ
ういふことを書いたの。19世紀後半は、時代に絶望は
していたけど夢も持ってたよね。例えば空を飛ん

でみたいとか。今考えてみると当たり前な事なん
だけど、それまで持ってきた夢を20世紀で全てカ
タチしてきたんです。そつういふ面では20世紀の
技術者っていうのは尊敬をされたと思うんですよ
ね。ところが、20世紀後半になつて建設系技術者が
たちまち自信を失つたんですね。何で？ 全ては役
所、行政の中に技術が取り込まれちゃった。その結
果、獨創性がまず奪われた。公共工事にしてもスベ
ック以上の事をやると叱られてしまつ。それから、
世の中のニーズを具体的に形にするチャレンジ力
や挑戦力が失われた。だから、自分達の社会的な職
能の位置付けを、わかつてもらつて努力もしない。
今、我々が考えなくてはならないのは、もう一回
技術屋の本質であるチャレンジして、創造して、

ど

んなな人生観を
持っていますか？

技術屋さんっていうのは常に手順に従つて執行
しなくちゃいけないでしょ。社会と自分をフィー
ドバック、あるいはレスポンスして考えなければ
いけない。自分が持っている技術の水準がどのく
らいかということも非常に大事だけれど、自分が
どのように生きていくのか、どのような人生観を
持っているのか、つてことと技術つていうのは、一



この森のすべてに
価値があるんだ。

できるだけ木陰から枝を前に出して、一輪でも多く花を付けようとする。最初は競争なんです。その次に共存になるんです。モミの外側の枝張りと同じくヤクナゲの枝張りが一体化してきて、遠くから見るとモミとシヤクナゲは一つの塊に見える。いくつかはお互いやつつけてやろうと思いがらだけ。ところがね、大風が吹いたり大雪が降ったりすると、今度は自分達の作った森を守ろうと、共生の感覚になる。この競争の原理を忘れると、そういうエネルギーを持ってなくなってしまうんです。多様性ってというのは競争関係を起こす意味ではすごく大事なんです。

もう一つ。それは佐々木さんという個性のある社長の会社、という表現。これはバイオテクインテックス/生物性指標、つまり象徴種。シンボルになる木でその森を固める。むつみがこれから非常に大事なことは、佐々木という大ケヤキの森になるのか、それともその下に木がどんどん生えてきて、いつかこのケヤキをね、今はのさばっているけどね(笑)今に虫とか付いてどこかの枝が一本落ちちゃつかもしれない。そのチャンスを狙って、いつかそこに差し込んだ太陽のところにむかって俺の枝を伸ばしてやるんだ、という気持ちがあるんだ。



花庭巧房みどり 菅原悦子

実は北海道の高橋延清さん、東大の演習林長に教わったんです。とろろ亀さんね。その人の話を聞いて、すごい感動したんです。北海道のブナの木は、毎年何億という種をばらまくんですよ。確かにその下を見ると微小な苗がたくさんあります。その木が仮に二百年生きたとしたら、大変な数の種を落としているわけです。でも、その木と同じ木になるのはたった一本だけなんだそうです。
「浦井さん、この木の後継ぎになる一木が素晴らしいって思うだけじゃだめなんだ。実はそのプロセスの中にそれぞれがそれぞれの役割を果たしている。その木が30メートルだったとしたら10メートルや5メートルで死んじゃう木もある。この森の土は全部それが積み重なっているから、全てに価値があるんだよ。」

お母さんみたいだよ(笑) 子どもを心配してね。

自分の生き方とむつみ造園、どう結びつけてどんなふうにしたいのか、夢を聞かせてほしい。
菅原悦子：公園管理を始めた時から、分からない事は覚えよう！って勉強するじゃないですか。でも、今、管理やって7年目になっても分からない事が全然減らないんですよ。
浦井：うんうん(笑)なるほどね。

愛 情込めて丹精込めて： 管理することの大切さ

菅原：勉強して身に付けても、次から次に消化できない程分らないことが増えて(笑)おもしろいんです。逆になんか、自分の仕事はいくらやっても自己満足できないし、あれも覚えたい、これも覚えたいっていうことが増えちゃって(笑)だから一人前になれないんですけど。これからの私の夢は、「これは菅原さんに聞こう！」っていうように、他の人とは特化した技術を身につけていきたいなと思っています。
浦井：お客さんから教えられる事と、自分がメンテナンスしている植物から教えられる事。両方あるでしょ？その体験を教えてください。
菅原：植物から教えられる事は、毎年計画的に管理して育てる、子どもみたいな感覚ですよ。虫が付いたり病気になったり、その都度なんでもうって。何の薬やればいんだろっみたいなの。
浦井：お母さんみたいだよ。去年はあんなに花が咲いたのに、なんで今年は咲かないんだろっとかさ。公共の場の管理ってというのは単に入札で終わっちゃう。本当にその子ども達を愛して継続的に見ようって思っているのに、突然発注の仕組み、自動的に親じゃなくなることがある。やつぱり管理は継続性が大事だから、継続的に丹精込めて愛情込めてやっていくのはすごく大事だよ。

菅原：造ることも大事ですけど、維持する事の難しさってというのが最近身に染みてます。
浦井：なるほどね。それは良い言葉だよ。深いね。主婦になっても大丈夫だよ。(笑)
草薨さんは個人の庭をやっているの？個人の庭ってクライアントの気持ちと自分の造りたいものとの戦いみたいところがあるでしょ。



ボタニカルセンター
庭苑課
草薨大蔵

変化するライフスタイル。 年代による表現法が

草薨：私は民間主体なのである程度は自分の意見が通りやすいっていうのはあります。ただ、本当に私が造りたい物と今流行っている物のギャップは確かに感じます。ガーデンングは一時期程ではないですが、花を植える為のスペースを造ってはかり。どちらかというと純和風な姿をやってみよう。
浦井：お客さんのライフスタイルも変化するでしょ。20代と50代って生活が違うわけだよ。20代の頃って個人の庭は生活の中ではほとんど興味を持たれない。30代の頃は幼い子どもがいたりして、家族の団らんが庭に表現される。だから花が咲いているほうがいいなって思うよね。40代になると今度は家庭から離れて、仕事から帰ってきて夜庭を見た時に景色が良いほうがヒールが美味いって思うわけですよ(笑)50代になると、だんだん風情とか文化が解ってくるから庭に個性みたいなものを出したいって思う。60代になると孫が可愛いと思う。命だとか若さに惹かれてまた花を植えたがるのね。お客さん自身も人生によって庭の見方が変わってくると思うんだよ。そんな経験ない？

草薨：まだ20代なんで(笑)

浦井：(笑)それでいいんだよ。20代には20代の表現がある。庭に明るさを表現するのは、絶対あなたに合う。自分の年代をわきまえた事を精一杯やっただけで、お客さんは喜んでくれるよ。お客さんから理不尽な要望が来たらどうする？

草薨：自分の中にラインはあります。やってあげられることとあげられないこと。

浦井：それがあれば良いね。「棚釣り大工」っていう言葉。ここに棚釣ってくださいってお客さんに言われた通りに棚を釣る。釣ってみると使い勝手が悪く、また別の位置に棚を釣ってあげる。壁は釘の穴ばかりになり、お客さんの言う事を聞いているようでお客さんの為になっていない。そういう棚釣り大工にならないっていう決意表明をしたね。

草薨：なりません！
浦井：いいね(笑)



こと造園が
わかってきたかな？

佐々木吉和：この佐藤さんは営業マンからスタートでプレゼン能力がすごいんです。

佐藤敏義：恐縮です。宮城県の大学卒業してすぐ建設会社に入りまして、営業14年、しかも公共工事ということで、当時は政治・官僚・業者と、まさに交差点のど真ん中でやってきましたが、38歳の時に



木は、どうして
枯れるんだろう？

仙台営業所チーフ
佐藤敏義



ガンになりました。休んだ時に後輩からの紹介でむつみ造園に世話になることになったんです。

浦井：ガンになったような顔してないよね。
佐藤：みんなにそう言われるんですが(笑)建設会社にはいた時は、造園っていうと正直言っておまけ的な感覚があったんです。でも造園業に入ってから、ある時自分で受注した物件が気なるようになってきました。最初に思ったのは土壌改良についてです。宮城ではパーク・ビナス・腐葉土・テンボの4種のある配合でなぜか決まっていました。その割に公共で植えた木ってあんまり健全に育ってないなって思ってます。

ある街路樹を3つの業者が5年にわたって3回同じものを植えて枯らせてしまっていた。そこで文献などのバックデータを示して土壌改良をして120本くらい植えてみたんです。今4年経ちますけども1本も枯れてません。そこで初めて造園が分かってきたかなって感じました。

当然、私のメインは受注すること。以前の仕事では政治力や行政との関係を利用するというパターンでしたが、ここに来てやっと自分なりに勉強してきた十数年のものを数値化して理解していただける。でもまだ分からないことがあります。「木は何で枯れるんだろう」その一点ですね。今、調査すると、その原因が深く深くのめり込んで(笑)



地域とのふれあい、
そして親子の関係も

今ではライフワークですが。最近はずっと地元業者だからといっても、以前枯らせたという理由で指名回避してる状況もありますし、逆に枯らせてないっていう評価をいただいていると営業的にもある程度当たっていたという部分があります。

ある地域の方が地域の道路に植栽しようという事がありまして、地域の方と私とお役所の方が入って、植えてみました。たまたま車に積んでる発根促進剤を根が付くまで状況が悪かったら使ってくださいと置いてきた事がありました。そしてまたまた百本くらい植えたいと電話がありまして「あの発根促進剤良かったんでまた持ってきてもらえませんか」って(笑)今日は社長も見えてるんで、言っているものか、と困ってますが(笑)。そういう土地との関わりも多くなっています。

私はPTAの会長をやつてまして、例の長崎の事件をひまえて会議がありました。木が枯れる事と、事件の加害者となった女児の事、なんか相関関係があるような気がして。評論家の方々が子どもにも競争力を持たせよう、とか言っていました。私のほうはまだ答えは出ておりません。

天然記念物の「タリマキガヤ」が地域にあります。これを教育委員会と東北大学の先生と樹木医の先生と協議して、実生と挿木から育てたものを山に戻そうという計画があるのですが、育ててもまっすぐにならない。どうしても枝だけが伸びて。その木の素性はどうなんだろう？どうしたらいいのか。我が子でも素性が分からない部分がある。親でもありますが生きてるものを生かし続けることの難しさに今、同時に考えさせられるものがある。それが多少解るようになってきたら自分の売り線、しいてはむつみの売り線になんかできそうな気がしています。



を育てる。
命の尊さを学ぶ。

浦井：すごく感動しました。大病されて、それから命つてどれほど大事なんだっていうことを大切に思うようになったんですよ。多分木が枯れる事を思うのも、そういう素直な思い。おっしゃる通りにまさに子ども達でも、場合によっては造園屋が花を植えるんじゃないかって、子ども達が花を植えたほうが良いと思うんですよ。映像の世界で見るとはなくて。菅原さんが言ったみたいに、枯らしたくないって思うんですよ。その気持ちが非常に大事で、僕は素人のあなたが営業からそういうところに踏み込んできて決めて不思議じゃないって思いますよ。それは人生の延長線のなかで自分のテーマが、たまたまむつみという道場の中で、自分の個性を見いだせた訳だから、それはほとんど伸ばしていったほうがいいんじゃないかな。

今の話の中に解答があると思うんだけど、「公共事業」っていう言葉は僭越だと。公と私があつて真ん中に共があるんですよ。公は要するにステイタスだしガバナードでしょ？こっちはプライベート。その間にパブリックがあるわけですよ？コモンとかね。昔は役所があつて個人行政があつて市民生活があつて。この間に「共」というお互いに手を携える場所があつた。ね？それを公共事業というのは僭越もはなはだしいんだね。「共」の部分も役所が自分の領域だと抱えたんですよ。だからドブ掃除も道の掃除もなくなつた。サービスタと思うから。自分の街をきれいにする為には、役所じゃなく市民が参加して初めてそうなるのであつて、それは役所が悪いんですよ。公共事業っていう言葉は、ただの「巨」事業なんだよね。だけど佐藤さんがその「共」の部分に、社長から叱られるかもしれないって言いながら、そういう事をやってるって言うのは、実はその運動を我々が上手に動かしている

ことが出来たら、逆に自分達の仕事を増やしていく可能性が非常に高い。「共」の部分に我々が民の立場でいるんな種をまいてその部分を育て、市民と手を携え合えるよう、事業として成り立つような仕組みにするヒントがあると思うんだ。

造園の仕事は、地域の方と手を携え合える。

佐藤：財政が一つの引き金になって、「官」事業でやりたいものが、お金が無いので民間を引き込んで悪い言葉で言えばメンテをさせる。でも結果として一体感が出て来てる事は間違いない。

浦井：そう。それをしっかりとしたシステム設計ができればね。

佐藤：ゼネコンと造園を比べた場合、すごく造園業って入りやすいなって。例えば下水道工事の場合、いつになったら片側通行やめてくれるんだ、という地域住民からの見方がありますが、公園の工事では、何が出来るんですか？って地域のおはあちゃんが見に来たり、地域の方とのコミュニケーションが取りやすい業種だなって感じますね。

浦井：その通り。造園業ほど市民と手を携え合える建設産業はないですね。



チーフ 花庭巧房みどり 佐々木創太

自然から教わること。子どもの環境を考える。

佐々木創太：秋田に戻って来て5年目になります。が、今までうちの会社が地域的に貢献といいますが、利益を別にしてやってきたことの評価がずいぶんあると正直思いました。業者さんやお客さんとふれあうことで感じます。当然私も戻ってきた以上は貫く意志を持ち、今後も地域に根差し、時代に合った活動を気を引き締めて皆さんと共に頑張りたいと常々思っております。

先程佐藤さんも話されましたが、子どもの環境についてですが、私が子どもの頃はそういう子どもの犯罪はありませんでしたよね。私の個人的な意見なんですけど、その当時の私らが遊んでいた景観っていうのは田んぼがあり、自然の中で今は違った遊び方をしたんですね。その例を含めて、自然が人間づくりだとか性格、人格に影響してくるので、今後そういった問題を防ぐ意味でも、田園風景とか農業、産産を業界の方々が発展させなければいけないと感じています。

浦井：素晴らしいね。今、各大学の学生の精神状態を調べてるんですよ。うちの大学の学生を調べたら、U.P.I (University Personality Inventory) という精神的身体的症状を見る心理テストなんだけれども、ある学部では約25%が精神健康度検査、

要面接者。あなたが言うように、自然が持つ教育効果というものをあまりにも軽視しすぎてる。農業とか動物を飼うとか植物を相手にする事は、先程

佐藤さん、菅原さんが言ったように、「命」がどんな風に育まれてきてどんな風に消えてゆくのか分かります。そういうことを遊びの中で学んできた子ども達は、いくらパソコンが流行るうと、実感があるんだよね。命に対する共感が。我々も注意しなきゃならないのはガーニングだとか庭だとか、下手をすると飾り物になっちゃう事。命の共感を与えるものが単なる装置しつらえてしかなくて、文化的には美しいんだけど、命の共感を巻き起こすものに成りきってないところがあるんだよね。文化としての造園は確かにある。美しい優れた様式美。もう一つあるのは環境としての造園というか、郷土とか地域とかにこだわったものをつくるていく。自分の故郷とか自分の源郷、その部分に自分の思いが重なった時に初めて「ああ、日本っていいな」って思えるでしょ。うさぎ追いかの山こぶな釣りしかの川。って歌うと景色が自分の頭のなかに浮かんでくるじゃない。浮かぶでしょ？ね！でも今の子ども達、特に都会の子ども達は浮かんでこないんだよね。

あ、日本っていいな、故郷っていいな。

同じ時期に産まれた2匹ラット(ネズミ)をそれぞれ金属のゲージと木のゲージで飼うと、命の長らえかたがどれくらい違ふと思う？金属のゲージで飼ったラットは木のゲージの中で飼ったラットの半分だというデータがある。いかに我々が自然の一部であるか。もつと怖いことに、日本は94%が森林と農地なんですよ。6%の中に1億数千万人が密集して住んでいる。その中で健全な子ども達が育つものかということですよ。

世 界観が変わりました。偏狭の地への旅

浦井：最後の大トリは榎さん。どうですか？今、むつみ造園を振り返って。
榎清英：新幹線の中で、浦井先生のアフリカの野生教室の本を読んで来ました。私もけっこう偏狭の地に行きました。1988年に秋田県造園協会で行きました。秋田県と友好の省、甘肅省に。
浦井：へえ甘肅省！それは知らなかった。
佐々木：日本庭園づくりに行っただけです。天安門事件とぶつかってね。



むつみ造園 榎清英 総括部長 営業部長

榎：こんなところに日本庭園なんて絶対出来ないよ、と思いましたがね、飛行機から見たら乾ききった赤土の月面のようでした。89年が天安門事件で行けなくて翌年の90年が施工。その後94年に友好会館が出来て、その招待でまた行きましたが。
佐々木：ちなみにその年の初めにはウラジオストクでも日本庭園を創っています。全部で48日間行って、みんな8キロづつ痩せてきた(笑)
浦井：もう一回僕も行きたいな、二人で行きますか？痩せるんでしょ？(笑)